

中南信における併設型中高一貫校の設置計画（案）に係る
パブリックコメント及び地域懇談会の結果について

高 校 教 育 課

1 パブリックコメント（意見募集）について

(1) 実施方法

標記計画（案）について、下記のとおりパブリックコメントを行った。

ア 意見募集期間 平成22年11月10日（水）から平成22年12月22日（水）まで

イ 意見提出方法 郵送、ファックス又は電子メール

(2) 提出件数

総 数	項目内訳	項目数
56件	設置校について	11
	設置目的について	7
	教育理念について	1
	実施年度について	2
	教育課程について	5
	募集人員について	2
	選抜方法・適性検査について	6
	県民への周知について	3
	周辺中学への影響について	6
	その他	13

主な意見・提案の内容及び県教育委員会の考え方は別紙のとおり

2 地域懇談会について

(1) 開催日、会場等

開催日	参加者数	会 場
平成 22 年 12 月 14 日（火）	約 140 名	諏訪市文化センター
平成 22 年 12 月 15 日（水）	約 30 名	長野県伊那文化会館
平成 22 年 12 月 21 日（火）	約 30 名	長野県松本合同庁舎講堂

(2) 開催内容

ア 諏訪清陵高等学校への中高一貫教育導入について（要望書）

イ 中南信における併設型中高一貫校の設置計画（案）について

ウ 意見交換（主な内容は別紙のとおり）

3 パブリックコメントにおけるご意見・ご提案の内容及び県教育委員会の考え方 設置校について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
1	諏訪地区から他県・他地区の小中一貫・中高一貫への小中学生の流出が相当数に上がる現状に鑑み、教育の機会均等のうえで、諏訪清陵への設置が必要である。	選定理由の一つとして、諏訪地区中等教育懇談会の「諏訪の子は諏訪で育てる」との願い、地域の課題である生徒の地区外への流出状況も考慮して設置校をお示しました。
2	生徒の他地区への流出は地域に自分の目的を達成するための学校がないことの現われ。併設型中高一貫校設置計画は現時点での最善策であろう。	
3	中高一貫校の設置により、中学卒業生の地区外流出問題が解消されることを望む。	
4	諏訪清陵が地域の子ども達や保護者にとって、より魅力のある学校となるよう積極的に推進してほしい。	学校や地域の要望を受けとめ、県民に中等教育の多様な選択肢のひとつを提供するとともに、地域の中等教育全体の教育力の向上に資する中高一貫校の設置に努めます。
5	グローバル化の時代に世界で通用する子ども達を育てていくことは我々の責務である。諏訪清陵が中高一貫のモデル校に選ばれたことは大変嬉しく、応援していきたい。	県教育委員会ではモデルケース2校の教育理念として、伸びる力を伸ばす学力の向上と豊かな人間性を涵養を通して、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会のために貢献できる人材の育成を謳っています。
6	諏訪や中南信の底上げのために、優秀な人材を育成するため、非常によいことだと思う。	
7	諏訪清陵は諏訪地域の中心にあり、広範囲から通学できる好立地である。	
8	交通・アクセス面からの利便性、中高一貫教育への取組み、導入に向けた早期からの研究という点から諏訪清陵が適切である。	諏訪清陵高校は、諏訪地域の中心に位置し、松塩筑地域や上伊那地域にも近接しており、公共交通機関の便もよく、中学生が広い範囲から通学しやすい立地条件にあります。平成22年度の教育要覧によれば、中南信地区全体で小学校の53%、小学校6年生の60%が1時間以内で通学可能な範囲となっております。
9	地元の生徒が行きたい学校、交通の便がよいという条件を諏訪清陵は満たしている。	
10	地理的に中南信の中心に位置し、中等教育懇談会も推進している諏訪清陵高校にぜひ決定してほしい。長野県の中等教育が一日も早く全国的に肩を並べられるようにしてほしい。	

11	本当に子ども達に必要な一貫校なら、全ての子ども達に保障されるべきで、住んでいるところや経済的理由で排除されるべきではない。	第1期再編計画では、中高一貫校の設置は本県におけるモデルケースとして位置づけ、東北信、中南信に1校ずつ設置するとしました。モデルケース2校の検証を行い、改めて平成30年以降となる第2期再編計画において中高一貫校の設置を検討してまいります。
----	---	---

設置目的について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
12	学校の選択幅の拡大、小学校の教科指導への刺激、何よりも真の学力や人間力向上に期待できる。	設置計画(案)にお示した教育理念・教育方針に沿い、豊かな人間性の涵養と学力の向上を2つの柱とし、公共性、社会性を備え、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会のために貢献できる人材の育成に努めます。進学実績はその結果と考えています。
13	中高一貫校は単に有名大学への合格者数を増やすためだけの方針が感じられる。敷かれたレールを歩かせるだけでは、豊かに生きる力にはならない。伝統に培われた校風を大切にしてほしい。	また、学校像や教育課程等を中心に学校と連携をとりながら全体構想を決定してまいります。
14	大学進学だけが高等学校の目的ではない。高等学校教育の意味を考えてほしい。	現代の社会の変化に伴い、子ども達も多様になってきており、それぞれの生徒に合った様々な教育の場が必要になっていきます。中高一貫校は子ども達への多様な学びの場の提供という観点から、多部制・単位制、総合学科などと同様に、生徒・保護者の選択肢を広げるものと考えます。
15	一部のエリートを育成することが目的に思える。弊害が大きい。	教育課程については今後県教育委員会と学校が連携しながら編成してまいります。基礎学力の定着の上に発展的な学習を展開し、探究心や思考力、主体的に学習に取り組む姿勢を涵養し、高い知性の実現を図ってまいります。また、教育課程の研究活動や教科指導が地域の中等教育全体の教育力の向上に資するよう配慮してまいります。
16	0.8%の選ばれた生徒だけに公教育で特別な教育をする必要性があるのか。残りの99.2%にはどういう教育をするのか。	
17	諏訪地方でもこの新しい教育制度を取り入れて、難関大学の合格者数だけの評価でなく、広い視野と確かな学力、地元の生徒との交友関係を得て、豊かな学校生活を送れるような中高一貫校の開設を望む。	
18	今中高一貫教育導入に踏み出さないと諏訪清陵は、旧態依然のままで、何も羽ばたくことはできない。	

教育理念について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
19	諏訪清陵の質実剛健の気風と自主独立の精神を基に勉学一途な生活態度を育み、高い知性を養い、健康な身体を鍛えて有為な人材を育成する理念は、リーダ	116年の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基礎に、社会に貢献できる優れた人材の育成、豊かな人間性や公共性、社会性を備えた人材を育成する

<p>ーシップの発揮と社会貢献できる人材の育成を目指す中高一貫教育の理念に相応しいと思う。</p>	<p>教育を推進してまいります。</p>
---	----------------------

実施年度について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
20	<p>教育の成果が結果として現れるには相当の年数がかかるので、平成 26 年度より前の導入を望む。</p>	<p>教育課程の編成、教員の配置、施設・設備等の整備スケジュールや、児童、保護者へ周知する期間などを考慮すると、平成 26 年の設置が適当と考えています。</p>
21	<p>諏訪清陵への設置はやめるべきだと思うが、実施するにしても屋代の結果を検証してからでも遅くはない。</p>	

教育課程について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
22	<p>中高一貫教育の特色は、系統的かつ弾力的な編成にあると思うが、この点について触れられていない。</p>	<p>今回お示ししたのは設置計画(案)です。学校と連携しながら、教育課程の概要や中高一貫校の特色等を盛り込んだ全体構想公表時にお示ししたいと考えております。</p>
23	<p>ゆとりのあるカリキュラムを組んで、かつ縦に長い先輩後輩の関係を築く人間教育の場として有効である。中高一貫の真の狙いは進学実績だけではないことへの理解を得る必要あり。進学実績は結果としてついてくる。</p>	<p>中高一貫教育の利点のひとつに、中学 1 年生から高校 3 年生までの異年齢集団による活動を通して、社会性や豊かな人間性をより育成できることがあります。</p>
24	<p>最近の生徒の幼児化の実態を踏まえると 6 年間という世代間の大きさによる子どもの成長に期待がもてる。</p>	
25	<p>現在高校で取り組んでいる専門教育を中学生も体験できるなど、特色をもった教育を期待する。</p>	<p>屋代高等学校附属中学校(仮称)の全体構想では、中学・高校の枠にとらわれない学習内容の再構成や発展的な学習、中高教員の乗り入れ授業などを計画しています。諏訪清陵高校の教育課程の編成は今後になりますが、こうした中高一貫教育の特色を生かした魅力ある教育を充実させていきます。</p>
26	<p>SSHの指定を受け、フォーラムやセミナーで優れた成果をあげており、文系理系を問わず特色ある教育が期待できる。</p>	<p>諏訪清陵高校は、文科省による平成 14 年のスーパーサイエンスハイスクール事業開始以来 3 度の指定を受け、過去に優れた成果をあげてきています。そうした教育資源を活用した特色ある教育活動に努めます。</p>

募集人員について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
27	男女同数を基本とする根拠は何か。	義務教育段階では、男女均等の人数構成を前提に授業や特別活動、学校行事等の教育活動を展開することが多く、男女のバランスのとれた教育活動は、発達段階的にまた学校運営上も適切であると考えます。
28	13歳から18歳という多感な時期をどう過ごすかという点で、80名という定員は少ないのではないか。	生徒間の切磋琢磨や学校の活力、地域の課題である生徒の地区外への流出状況等を考慮して、2学級80人程度が適当と判断しました。また、高校1年からは同一学年に新たな入学生（外進生）が入り、交流範囲も広がります。

選抜方法・適性検査について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
29	松本地区への優秀な学生の流出が懸念されている。学力検査ではなく、適性検査を行うとのことだが、力のある学生を選抜できる検査でないと諏訪清陵高校の進学実績が伸び悩むのではないか。	適性検査の内容は、小学校学習指導要領に基づき、県立中学校入学後の学習や生活に取り組んでいく上で必要な適性を検査することを基本とし、入学後に求められる思考力・判断力・表現力等をみることができるとします。
30	適性検査が選抜の最重要資料とは思わない。指導要領による学力適性は十分に信頼にたる資料である。	
31	入試競争の低年齢化により「学校の荒れ」が拡大した場合、誰が責任を負うのか。	本県の適性検査は単なる知識の量や高度な計算力を問うものではありません。学ぶ意欲を否定するものではありませんが、塾通いなどの特別な準備をしなくても、小学校までの積み重ねが正しく評価され、附属中学校入学後に求められる思考力・判断力・表現力を見たいと考えております。受験準備のために小学生を過度な受験勉強に追い込むことがないように、受験競争の低年齢化を招かないように努めます。
32	行きたい人が多くなるほど、塾通いが増えて、受験競争が激しくなる。また、屋代の試行検査の問題は、たいへん難しく小学生がこのような問題で競わされることは、教育上大きな問題である。	
33	屋代での開校決定に伴い、小学生の塾通いが既に始まっている。受験競争の低年齢化、教育格差の拡大は明らかである。	
34	適性検査は難しく、集団面接は慣れない子どもがほとんどである。小学校の報告書の中身が不明である。	

県民への周知について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
35	過去において、学校、PTAによる保護者向け説明会や話し合いは一度もなかった。	併設型中高一貫校の設置方針としましては、学校や地域からの要望を受けて検討

	た。諏訪地区中等教育懇談会の意思決定についても地元保護者の何%が参加したのか。意見集約などの手続きが適切であったか疑問である。	することとしております。東北信と同様、中南信においても諏訪地区中等教育懇談会の報告書や諏訪清陵高校からの要望を受けて設置計画(案)を策定し、広く県民の皆さまの意見・要望をお聞きするため、地域懇談会を開催しパブリックコメントを募集するという手順を踏んでおります。なお、諏訪地区中等教育懇談会のメンバーには、諏訪地域6市町村の全教育委員会と小中高校のPTA連合会役員の皆さまが参加されております。また、懇談会は公開されており、傍聴も可能です。
36	保護者への情報提供のルート(県教委からか、市町村教委を通してか)をはっきり決めてほしい。	中高一貫教育については基本的に県教育委員会より、設置計画や全体構想、入学選抜の情報をお伝えしますが、内容によっては教育事務所や学校経由で情報をお伝えする場合があります。
37	保護者からの問い合わせを県教委のどの部署にすればよいのかを周知すべき。また、諏訪清陵高校においても保護者からの問合せに対応できる体制を整備してほしい。	中高一貫教育に関する問い合わせ先は高校教育課高校改革推進係ですが、さらに県教育委員会 Web サイトやプレスリリース等での広報に努めてまいります。諏訪清陵高校については、平成23年度に設置予定の開設準備室にお問い合わせください。

周辺中学への影響について

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
38	他圏域からの流入により、諏訪清陵が地元生徒にとって入りづらい学校になる。	できるだけ多くの子ども達に入学の機会を与えるとともに、地域の「諏訪の子は諏訪で育てる」との願いや地元中学への影響を考慮して、設置校は中学生が広い範囲から通いやすい立地条件にあることが望ましいと考えています。
39	受検教育を目的として他圏域から入学してくる生徒が増えることは、郷土に対する愛情、思いを育む教育に繋がらない。	
40	隣接した中学校などから生徒の流出が予想される。	
41	広範囲から小学生が受検するということは、受験競争の低年齢化を広範囲に広げることである。	
42	諏訪の子を諏訪で育てるというのであれば、10%条項を無くし、12通学区に戻すことが一番よい。	
		通学区については、交通の便もよくなったことから、生徒・保護者の選択肢を増やすという観点に立ち4通学化したものです。基本的に通学区を狭くするという方向は考えておりません。

43	併設中学校の教育課程や指導方法を地元小中学校に還元することによる効果など、多様化による良い影響もある。	中高一貫教育における教育課程の研究活動や教科指導が地域の中等教育全体の教育力の向上に資するように配慮してまいります。
----	---	--

その他

	ご意見・ご提案の内容	県教育委員会の考え方
44	進学時のギャップを軽減するというが、進学によっていじめが解消されるなど良いこともある。	第1期高等学校再編計画では、中高一貫校の設置は、あくまでモデルケースとして東北信と中南信にそれぞれ1校を設置します。その実績をしっかりと検証した上で、中高一貫校設置の今後の在り方を第2期再編計画に生かしていきたいと考えております。
45	小学校の教員が保護者等に対して指導助言をしなくてはならないケースも出てくる。そのため、小学校教員に今までの経過や目的をレクチャーすべきである。	校長会や市町村教育委員会とも連携を密にしておりますが、県立中学校入学者選抜要綱決定後、小学校において入学者選抜に関わる実務担当者には何らかの説明をする機会を設けたいと考えております。
46	学力のある子どもを引き上げることも大事だが、学力不足の子どもを対象にした学校づくりや場の設置の議論も必要。地域校や特別支援学校ではまかないきれない部分も出てきている。中高一貫校と並び重要施策として取組んでほしい。	県教育委員会ではすべての子どもの教育活動についてさまざまな支援・施策を実施しております。教科指導面においても学力問題を含め学習活動全般の手立てについて引き続き取り組んで参ります。その一環として「伸びる力を伸ばす学力の向上」もまた重要な施策の一つであると考えております。
47	一部の子どものためではなく、全ての子ども達の教育条件の向上が公教育の責任である。	
48	県教委は選ばれた子どもに特別な教育をするのではなく、30人規模学級や教員定数の増加などですべての子どもに学力の保障、行き届いた教育をすべきである。	
49	中学校、高校はともに中等教育、高等教育のための場であるはずで、生徒は大学進学率を上げるための傭兵ではない。	
50	将来的にはもの作りやスポーツに力を入れている学校や、子供たちが将来を見据えて、なおかつ希望を持って学べる学校がたくさんできるよう望む。	県教育委員会では、魅力ある高校づくりの推進方針として、多様な学びの場の提供、専門高校の改善・充実、各校における魅力づくり等をあげています。中高一貫教育の導入もそのなかの施策の一つです。現在第1期高等学校再編計画を推進中ですが、第2期再編計画に向けて、引き続き県民の皆さまのご意見ご要望に応えられる

		ように努めてまいります。
51	12～15歳の子供達が遠距離通学を余儀なくされ、部活も十分保障されない中学生を送ることは問題である。	中高一貫校はあくまで選択的導入として設置されるものです。県教育委員会としては多様な選択肢のひとつとして提供するものです。
52	素晴らしい理念の学校を開設するならば、県下すべての子供がその教育を受けられるようにすべき。	本県における高校改革は、これまでも子供たちの多様なニーズに応えるという方向で進められてきました。中高一貫教育もその一環として導入するもので、総合学科や多部制・単位制のような新しいタイプの学校のひとつです。一律に中高一貫教育を行うことは、かえって選択肢が狭まり、個性に応じた教育にはならないと考えます。
53	県内の小学校では進路指導は行われていない。家庭の教育力、経済力で子供達の進路が左右されてしまう。	県内において私立の中高一貫校が複数設置されている現在、家庭の経済的負担の軽減につながる公立の中高一貫校の設置が望まれています。
54	不合格者への指導が小学校に求められる。進路指導や報告書の作成で小学校は混乱する。	小学校におけるキャリア教育や進路指導の在り方について、教学指導課や義務教育課、校長会等学校関係者と連携して対応を図ってまいります。報告書の作成につきましては今後「県立中学校入学者選抜要綱」において内容を決定してまいります。
55	不合格になった児童への指導は、小学校教育にとって新たな課題が持ち込まれることである。	小学校の負担を極力軽減する方向で検討してまいります。
56	長期に腰を据えた育成過程を持つ学校に期待する。そのためには、短期の転勤や均等主義をなくし、名物教師を育成し、優秀教師を集めることを容認すべき。また、教師の事務処理や雑務をなくし、多数の運営マネージャーの設置が必要。でなければ、中高一貫にしても授業の質的向上は無理である。	附属中学校教員は、「義務教育関係諸学校教育職員等人事異動方針」に基づき配置します。高等学校教員と附属中学校教員が相互に授業を担当するなど、6年間を見通した指導ができる体制を整えてまいります。

4 地域懇談会における主な意見交換の内容

平成 22 年 12 月 14 日（火）18：30～20：30

諏訪市文化センター

参加者 約 140 名

主な意見交換の内容（ゴシック体が参加者の意見等）

（男性）

中高一貫のデメリットは何か。またデメリットに対する対策は。

1つは6年間の集団が固定化してしまうこと。屋代ではクラス替えや外進生と触れ合う授業などで刺激を与える。もう1つは中だるみが起こってくる。屋代では1人1研究や中学卒業時の卒業論文などハードルの高いものを自分に課すことで、中だるみを防止する。対策は十分に考えていかななくてはならない。

（男性）

屋代の試行検査はなかなかの問題であった。およそ9倍強の応募があり、子や孫に適性検査や集団面接の練習をさせる必要があるとつくづく思う。経済的に塾通いが無理な場合、小学校の先生に対策をお願いしなければならないが、県教委としてはどう考えるか。中学の途中でついていけなくなったときに、転校はできるか。また、高校入学時に他校を受検できるか。松本、伊那、飯田での設置も考えているか。

新聞等でも難しい計算をする力は必要ないが、普段から物事を観察していく力は問われるだろうと評されている。県教委としても適性検査は小学校で普通にやっていることを基本に勉強することを一番大事に考えている。単に知識の量を問う教科の試験ではなく、思考力、判断力、表現力を総合的に問う課題を考えている。入学者については、さまざまな子供たちがいて、幅広い子ども達の育ちがあることを十分踏まえてクラス経営をしていく。進路変更については、3年経ったときは他校を受検することは可能である。他地区への設置については、第1期のモデルケース2校への評価を踏まえて、第2期において、考えていかなければならない。

（茅野市 男性）

競争が激化し、屋代周辺では塾が繁盛している。小学校における学習での問題点は何か。適性検査で落ちた子は不適正の烙印を押されたとも考えられ、そういう教育が子ども達にとってメリットとなるのか。

かつて通学区が広がったことで、諏訪から生徒が流出した。以前の通学区に戻す改革はできないか。

選ばれた80人だけが、立派な教育を受けられるという改革の方向が妥当なのか。

普段から物事を考えたり、観察したりする力など、塾に行ってもやることではなく、小学校で普通にやることを適性検査では見る。そのことを試行ではお示しした。適性検査に不合格だからといって不適正と考える必要はない。進路を選択するということはどういうことか、自分の決断で受検したが、その後どうやって気持ちを切り替えるかなどを含めて、小学校の中で進路学習、キャリア学習を積極的に取り組んでもらいたい。中高一貫校はかなり広範囲から生徒が集まると思うし、集まれる学校が候補でなければならない。通学区については、交通の便も良くなったことから、選択肢を増やすという議論から4通学化したものである。狭くするという方向はない。文科省でも選択的導入と言っていたように様々な選択肢の一つとして、中高一貫校が位置づけられており全ての子ども達が選ぶべきとは考えていない。

（下諏訪町 男性）

諏訪清陵に白羽の矢を立てたことは妥当な線である。知事部局の支援も必要である。知事は一般論として小中学校でも多様性や特色を持つことは大事だと言っていた。他郡市からの立候補状況は、関連地域の小学校に及ぼすメリット・デメリットは何か。

知事部局ともしっかり連携をとりながら進めていきたいと考える。地域や学校からはっきりした形で要望があったのは、諏訪清陵だけ。ポイントとなったのは、屋代も諏訪清陵もかなり以前から議論されてきたということ。小学校にとってのデメリットはそれほどないと思うが、適性検査の内容を見て、知識を詰め込まなければならないととられれば、それは小学校にとって最悪のメッセージとなる。だから、適性検査では思考力、判断力、創造力を見るようにしなければならないし、そういう力をつけてもらいたい。教科の学習だけでなく、特別活動、学級活動なども含め、どのように力をつけてきたかを見て判断していきたい。

（諏訪市 同窓生 男性）

屋代では、塾に通う子どもが倍増している。学校の勉強だけでよいといっても、塾が問題に対して傾向と対策を立てていくことは防げない。諏訪ではさらに激しい競争が予想され、地元の子も達が入りにくくな

る。本当に地元の子供達のために何がよいのか考えるべきで、白紙に戻して検討してほしい。今までPTAに対して説明がなかった。中等教育懇談会でのもまとめもほとんどの保護者に知らされていない。決定までの手続きに問題があるのではないかと。文科省も一極集中に伴う競争激化を理解していながら是正していない。一方でいじめや自殺など教育現場での問題が起こったときに学校現場や教育委員会の責任にされる。根本的な問題についての是正を文科省もともに考えるように県教委から申し入れをする必要がある。

地元中学校への影響を、できるだけ広い範囲から小学生を集めることで避ける方法をとった。平成10年頃から積重ねてきて、その都度様々な形でまとめてきたものをいろいろなところで示してきた。中高一貫教育に関しては、様々な選択肢を用意するというので、取上げたもの。多様な選択肢を導入することはマイナスの影響とは考えていない。文科省に対して様々な問題を提起している。いろいろな課題に関して文科省と共通の土俵で考えていく。

小学生や中学生、保護者に一度も説明がない。中等教育懇談会での結論にも我々は意思表示をしていない。

平成10年から研究、議論を始め、平成21年の第1期高等学校再編計画の中で、モデルケースとしての設置が盛り込まれ、パブリックコメントも取っている。そして、今年10月に諏訪清陵から要望があり、11月の定例会で諏訪清陵が適当であると判断した。決して拙速な議論ではないと思う。そして、決定に向けて、様々な意見を聞くべきとして、パブリックコメントや懇談会を実施している。

(茅野市 男性)

地域の小中学校とよく連絡をとって、地域の子供を育てるといことは、教育の原点である。小中学校に頑張ってもらい、中高一貫によらない教育をしっかりとやってもらいたい。

(諏訪市 女性)

県や市町村で決めたことは、保護者に情報が届きにくいのが常である。今日も保護者が少ない。保護者にどのように情報を届けるか考えてほしい。保護者が安心して学校の選択ができるように精一杯の情報提供をしてほしい。

その点についてはしっかりとやっていかなければならない。屋代でも懇談会の段階では保護者の方は少なかったが、全体構想説明会では600人という大勢の方が来た。諏訪でも全体構想の段階では、是非いろいろな形で宣伝していきたい。

(茅野市 小学生保護者 女性)

校舎は現在の校舎を利用するのか。今回のモデル校は大学進学が目的と受け取ったが、第2期で中高一貫校を増やしていく場合、スポーツや工業など特色のある学校にも導入していく考えはあるか。

屋代の場合、基本的に高校生と共有して一緒に学んでいくが、中学生に必要なHR教室、技術家庭科教室等は作らないといけな。諏訪清陵も広い学校ではないので中学生に必要な部分は出てくると思うが、現在のところ示す段階ではない。現在は1つの理念のもとに2つのモデル校を設置していくが、必ずしもどこの大学に入ったということを目指しているわけではない。その学びの姿を見ながら、第2期中で、中高一貫校をさらに広げていくべきかやスポーツ、工業など様々な選択肢についても考えていくことになる。

平成22年12月15日(水) 18:30~20:30

長野県伊那文化会館 小ホール

参加者 約30名

主な意見交換の内容(ゴシック体が参加者の意見等)

(駒ヶ根市 中学校教諭 男性)

諏訪清陵への設置において県教委で想定している課題と改善点は何か もし定員に満たない場合、1クラスでもやっていくのか。

施設面で中学生と高校生が一緒に使っていくという良い面もある一方、技術家庭科室など中学に必要なものは整備していかないとないが、そのための用地を校内のどこに用意するかという問題もある。

全国的には定員割れしている学校もある。都市部でない場所に設置したり、募集の方法が不明確であることが原因と思われる。諏訪清陵は設置場所として多くの生徒が集まることのできる場所である。これは地元

の中学に影響を与えないという点からも重要な観点。新しい学校であり、定員が割れるような事態は避けなければならない。

(茅野市 高校教諭 男性)

諏訪清陵の教育理念が相応しいとのことだが、相応しくない学校があるのか聞きたい。外進生と内進生をミックスした形となるのか。飯田など自宅からの通学が無理な生徒にできるだけ配慮したいとのことだが、具体的には、外進生はどのくらい募集するのか。

相応しいというのは、モデル校として様々な条件を満たしているという意味。中でも学校としてしっかり議論をして中高一貫校としてやっていく気持が非常に重要な要件である。教育課程の問題であり、基本的には設置決定後に学校で検討していくことになる。そういう意味ではなく、中信地区に住んでいるが、通学時間的には屋代の方が近いという場合にどのように配慮できるか考えていきたいということ。今回はモデル校なので、通学が困難な場所があることは承知している。設置計画が正式に決定した後、校舎のキャパシティや7区全体の生徒数等も考えて決定していく。

(茅野市 高校教諭 男性)

ついていけない場合に転校は可能か。給食はあるか。この懇談会についてどのように周知されているか。屋代ではかなり人数が集まったと聞かされた。作るだけ決定して、あとは学校にお任せでは困る。諏訪にとって特別な学校である諏訪清陵をめっちゃめっちゃにすることがあってはならない。

転校を制度的にどうするか検討していく。ただし、成長や変化は人それぞれであり、それに対応していくのは全ての学校の使命だと考える。中3修了の段階で他校を受検することは可能である。現在検討中である。屋代で行ったのは、具体的な全体構想の説明会であり、保護者に直接手渡せるよう案内した。今回はモデル校として相応しいか否かを問う会であるので、人数の違いはそのようなところに出てくる。学校について最終的に県が責任をもつということは当然のこと。ただし、教育課程は学校長の責任である。細かい部分まで教育委員会が立ち入ることは差し控えたい。

(茅野市 高校教諭 男性)

開校までに施設は出来上がるということでしょうか。

大きな建物の建築なので1年以上はかかる。なかなか厳しいことではあるが、平成26年4月には間に合わせたいということで、開校時期を考えている。

(伊那市 男性)

SSH等、理系については力を入れていこうだが、文系を志す子ども達の指導について聞きたい。

学校が全体計画の中で考える。屋代の場合も小学生の段階から理系文系を選択する必要はない。最終的に人文科学と自然科学に分かれる。どの生徒にも対応する。決して理系に限っていない。諏訪清陵も同様。科学的な思考力は文系に進む人にとっても必要であり、そういった伝統は活かせると思う。

(飯田市 小学校教諭 男性)

飯田市からは通学が不可能である。我々の地域にも今後作られる可能性があると考えてよいでしょうか。

平成30年以降生徒数が激減するが、できるだけ早い時期に第2期の計画を考えていかなければならない状況にある。その際、単に数合わせでなく、魅力ある高校教育の全体像を創り上げなければならないことは当然である。だから、第2期計画で、モデル校の評価を踏まえながら、もう一度中高一貫教育の進め方について議論していかなければならない。

(駒ヶ根市 中学校教諭 男性)

適性検査試行問題を見たが、50分で解くにはかなり練習が必要だと感じた。塾通いも増えているようだが、対策はあるか。入試の結果は児童にどのように伝えられるのか。

適性検査試行では、塾に通って難しい知識を手に入れなくても普段の学習で十分間に合っていくことを示したかった。小学校で実験や観察を大切にする、あるいは、物を考える習慣を身に付けるといった中で問題が解ける、といった形が理想だと考える。今回の試行のように個人宛に結果を報告するようなことはしない。高校入試と同様な形になると思う。

(諏訪清陵高校生 男性)

学友会活動やクラブ活動なども高校生と一緒にやるという説明があった。部活などで帰宅時間が遅くなるが、安全面についての考えは？ 高校進学時に他校を受検できるとのことだが、諏訪清陵中学で学んで、さらに高いところへ行くのであれば、諏訪の子どもを諏訪で育てることにはならないのではないかと。

諏訪清陵の土地は限られている。離れたところに中学校を作るのであれば、他の中学と変わらないのではないか。

あまり遠くから通ってくることをよとしていないわけではない。ただし、高校受験がないということは中高一貫の大きな魅力だ。自分のやりたいことを深められる。その期間に自分で受験勉強をして、他校を受けようとする人はそれほど多くないと思っている。6年一貫の学校として考えてもらった方がよい。安全面も含めクラブ活動をどのように行っていくかについては、学校が全体計画の中で考えていくことになる。そのとおりで、中学生と高校生と一緒にやるのが大事だ。校舎は今の校地内に建てるのが基本になる。一緒にできる部分は一緒にやっていけるよう工夫してもらいたいと思う。

(茅野市 高校教諭 男性)

新校舎建設には相当なお金がかかる。屋代ではどの程度予算が組まれているのか。

11月補正で実施設計の予算が2,400万円程ついた。その際に全体の事業費として概算で5億円程度としている。

平成22年12月21日(火) 18:30~20:30

長野県松本合同庁舎 講堂

参加者 約30名

主な意見交換の内容(ゴシック体が参加者の意見等)

(諏訪清陵高校卒業生 男性)

他地区への流出のことがばかり取りあげられるが、広域からたくさんの方が来ることが保護者達にも理解されていない。屋代では塾通いが倍増していることは、県教委も承知していて好ましいことだとは感じていないのではないかと。信頼関係を築くべき幼少の時期に競争を持ちこむのはよくない。中学校で学校が荒れるのは、明らかに入試の影響だ。また、厚労省の調査では、公立中学校生徒の1/4がうつ状態としている。このような状況を小学校にまで持ってくるということになる。中高一貫校の議論は、すでに全国に出来ている、世の中は競争社会で仕方ない、選択肢はないというところから始まっている。しかし、こういった入試競争は非常に単純な理由で起きていて、簡単に解消できる。文科省も気づいていながら、改革を怠っている。いじめや自殺などの事件が起きると、学校の先生の対応が問題になるが、日本は1クラスの人数が多いし、教育支出も少ない。先生達もぎりぎりで行っている。現場だけに押し付けず、文科省もきちっと是正に取り組むよう県教委からも申し入れをお願いしたい。

出来るだけ広い範囲から生徒を集めることが地域の中学校へ影響を与えないということと、小学校の頃から地区外へ流出してしまう子ども達を何とか地元で教育したいということは、相矛盾するものではなく、2つとも地域の願いとしてあり得る。我々も受験の低年齢化を期待しているわけではない。適性問題で問われるのは物をしっかり考える力、じっくり見て観察する力である。受けた子どもがどうして合格したかあるいは不合格になったかに納得がいけないことはまずいので、適性検査等、様々な手段で行っていくことになるが、そのときに小学生がどのような気持ちで望むかについてしっかり見据え、同時に小学校へ事後の指導のお願いをするなど気を配らないといけない。文科省が学習指導要領を示すということは一定の教育レベルをどのように保つかということであり、我々から良い悪いということではできない。教育の考え方はいろいろあるだろうし、国によっても様々だ。我々としては現行制度の中で考えていくものである。

競争そのものは否定するばかりでないと思う。中高一貫教育の担当として、受験競争の低年齢化は起こさないように配慮した入学者選抜の方法を探っていきたい。

(中学校教諭 男性)

外進生の定員は決まっているのか。外進生は6年間のサポートの外に置かれるが、どのように扱われるのか。モデルケースとしてのジャッジはどこが行うのか。また、よくなかったと判断された場合、これらの学校は無くなるのか。説明の中で進学率が1つの指標となっていたが、その数字を上昇させることを目指すのか。

一般の高校と同様に生徒数の変動や他校の定数などと併せて考えなければならない。今は言える段階ではない。普通の学校と同じである。6年一貫の教育はすべての子にベストなわけではなく、あくまで選択肢の一つとして示した。平成30年以降は子どもの数が急激に落ち込む。その時期を見据えて平成25年度以降に第2期の再編計画を考えていく。その中で中高一貫についてももう一回考えてみるということ。ただし、大学に入った数で評価するつもりはない。保護者の意見や学びの様子を見ながら判断したい。進学率を示したのは、諏訪清陵高校の概要を説明するためのものである。

(安曇野市 男性)

諏訪清陵への設置は、来年1月には決定ということでよいか。教育課程や施設は今後示されるのか。パブリックコメントにはどんな意見がでているのか。保護者への説明会は計画されているのか。

設置者の立場としては、1月には決定したいということである。設置を決定してから全体計画を示すまでに時間がかかる。今の段階では教育課程はお示しできない。ただ、入学者選抜については、屋代と同様と考えてもらってよい。施設も校舎を建てるか、既存のものを使うかなどまだ検討されていない。中高一貫のメリットである異年齢集団のまじわりを基本にすると同時にHR教室や技術家庭科室など中学生に必要なものはしっかりとつくる。パブコメについては、こちらからの回答も含めて全て示す。今回は懇談会だが、教育過程や選抜の方法を示すときにはあらためて説明会を行う。

(安曇野市 男性)

中学から2クラスが上がっていったときに、高校の募集定員が変動するということか。

中学校の卒業生数に合わせて各通学区の学級数が決まってくる。平成29年の話なので、まだわからないが、出来るだけ精度のよい段階になったら学級数を示していきたい。

(安曇野市 男性)

安曇野市から通うと定期代も相当かかる。奨学金は支給されるのか。また、広範囲から生徒を集めると帰宅時間にも影響があり、学友会やクラブ活動などの自主活動は保障されるのか。

自主活動については、学校が考えていく。中学生という段階だから、家庭の中の学びもあるので、基本は自宅から通ってもらいたい。通学に長い時間をかけるよりは、むしろ自分で勉強した方がよいという考えもある。じっくり親と相談したり、自分で考えてほしい。高校での貸与制度が適用できるかどうか現在検討中である。

(保護者 女性)

諏訪清陵でも適性検査の試行を何回か行うのか。給食については現段階で決まっているか。

中学校の入学者選抜は初めてであるので、どの程度の解答が出てくるかわからない、また、受ける人も本番でどのような問題が出てくるかわかりづらいので、試行を行った。よって、今回1回きりと考えている。解答や問題の作成方針はインターネットに載せてあるので、実際に受けるときの参考にしてほしい。今のところどのようになるか説明できない。食の大切さや栄養についてどのように考えていくかは、仮に給食が出来ない場合でも、それに替わるものをしっかり考えていかなければならない。

(中学校教諭 男性)

中学3年の時点で他校への進学を選択した場合、中高一貫はカリキュラムを組替えているので、中学で学ぶべきものを学んでいないケースも出てくると思うが、いかがか。面接と調査書で判断という部分は高校入試の前期選抜をイメージすればよいのか。人間性を見るということをどのように考えているか。

中高一貫は中間に試験を挟まないため、自由度、ゆとりが増す。それを犠牲にして他校を受験するという人はほとんどいないであろう。他県でもほとんどない。ただ、選択の自由はあり、自ら受験勉強するのであれば、その時は担任として責任を持って指導する。面接は集団面接である。調査書は学習指導要録のような形式のものなので、際立ったようなものではない。集団面接の中でどのように見るかは形式にこだわる必要はなく、その子の素顔のようなものを大切にしたいと思う。

(男性)

受験の観点から伺う。諏訪清陵高校卒の3人に1人は浪人しているという由々しき実態である。内進生と外進生が高2の段階で一緒になると、カリキュラムの前倒しで高校3年次を受験勉強に充てられるという中高一貫のメリットが薄くなる。父母は本音では高い進学実績を期待している。カリキュラムの前倒しは可能か。

屋代で示したカリキュラムのパターンがある。進度優先型はどんどん進めて出来るだけ早く大学入試の形の練習や応用に入っていくもの。これは重厚な教養主義にはならない。スパイラル学習は深みはあるが進度は同じになる。屋代では社会や理科に採用する。もう一つは体系学習を重視する形で6年間全体で中高的教育課程を再構成するもの。屋代では国語・数学・英語で考えているが、デメリットは外進生と混合しにくいこと。屋代では生活集団としては混合しないで、教科によっては混ぜていく。どれを通じてもできるだけ深いものをしっかりとやっていきたい。結果的に進路実績につながっていくことも十分あると思うが、進路を目標とする考え方ではない。ただし、かなり高度な部分、より高い部分も教育課程に含まれてくると思う。

(諏訪市 同窓生 男性)

中等教育懇談会で決意表明したことになっているが、各学校・PTAに説明を一切していない。しかも年間2

回しか議論していない。適切な手続きをしていない。地元での検討が不十分なことをわかりながら県は進めるのか。日本の競争は改善すべき国民的問題であるが、文科省も原因を知らず放置している。現場で問題が起これば教育委員会も学校も避難を受ける。今回のことも示して、文科省に申し入れしてほしい。

諏訪中等懇は非常に大規模な会議である。よって年間回数を多くして開催されるものではないと思う。我々は受け取った立場であるが、地域の皆さんの意見として、しっかり議論されたものと考えている。地区外への生徒の流出を危惧する中での結論ときいているが、地域の中で中高一貫教育がほしいとの意見があるのは1つの重要な要素として考えている。競争についても考え方だと思う。小さい頃から塾へ行って、知識を詰め込む競争は要らないというメッセージを出していきたい。普段の授業をしっかりとやる中で、観察力・思考力・表現力を大事にする授業をやってほしいというメッセージであれば、小学校の教育を歪める形にはならないと考えている。定員がある以上、選抜をせざるを得ないが、過度のいびつな形にならないことを考えて進めていく。

(高校教諭 男性)

2学級規模でも中高一貫で12教室が必要になる。建物は増やさざるを得ないと思うが、技術家庭科の教室等は必要になってくると思うが、ゆとり・つながり・まじわりを大切にすることが、中高一貫であるので、必ずしも全部新しいものを作る考え方をとっていない。